

スギウラ株式会社027-361-5808

2課商品案内⑪

第 17 回の今回はカミ商事の春の新商品「お茶のカパンツ」と「肌ともローションティシュー」のご案内です。

まず、「お茶のカパンツ」です。外出時になかなかパンツを交換することのできない高齢者の方にとって、気になるのは尿の臭いです。周りの人に「尿の臭いがばれないか」、「肌トラブルは大丈夫か」そんな不安を抱えている方にぴったりなのが、「お茶のカパンツ」です。

第 1 の特徴は、脱臭効果です。尿の臭いは、尿の成分である尿素が、空気中の細菌に触れてアンモニアに分解されることで発生します。時間の経過とともに多く発生する為、長時間おむつ交換のできないお買い物中や、旅行中などでは尿の臭いが発生しやすくなってしまうです。「お茶のカパンツ」は、茶葉を配合して作られた茶香紙を配合しており、茶葉に含まれるカテキンの力でアンモニアの脱臭効果が期待され、長時間パンツを利用しても尿の臭いが気になりません。

第 2 の特徴は、抗菌効果です。茶葉カテキンの力により、細菌の繁殖を抑えるので、お肌がデリケートな人でも安心して使用することができます。また、紙パンツにありがちなごわごわ感はなく、やわらかでふんわりとした肌触りで、肌トラブルが気になる人や、なかなかおむつ交換のできない人にお勧めです。



次は「肌ともローションティシュー」です。花粉症のシーズンになり、花粉症でお悩みの方は外出時ポケットティシューを手放せないのではないのでしょうか？ しかし、ポケットティシューの入り数は通常 10～12 組程度で、使用時にすぐになくなったり、ティシューの交換回数が増えてしまいます。「肌ともローションティシュー」はそのようなデメリットを解消する商品となっています。

「肌ともローションティシュー」はピュアパルプ 1 0 0 %のティシューに保湿成分とキュアベリーエキス（ブルーベリーの一種であるビルベリーの葉から抽出されたお肌にやさしい作用を持ったエキス）を配合して肌にやさしくふんわりとしています。

他のポケットタイプのローションティシューとの違いは、容量と特徴的な外装です。外出時にも安心のたっぷり 5 0 組(1 0 0 枚)入りですので、通常のポケットティシューと比べて、交換回数が減り、長時間使用できます。

外見的にも今までのポケットタイプの商品と違い、外袋にアルミ包装と蓋ラベルを採用しており、容量が多くなったローションティシューの保湿性を維持させ、従来のポリ包装に比べてとても丈夫になっています。また、使用後は蓋ラベルを閉めることができる為、次のティシューが外に出たり、かばんの中が汚れたりしないので衛生的です。

商品の詳細や価格に関しては、弊社の担当営業か、営業 2 課までお気軽にお問い合わせください。

(お)

スギウラ株式会社

〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業1課
027-361-5734
営業2課
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

スギウラ株式会社027-361-5808

2014 年 3 月 1 日 発行 第 80号

特 集

- 山肌に 黄色い煙
- 賞状にカラー印刷
- ノーカーボン紙印刷時の注意点:伸縮
- Japan Color(ジャパンカラー)認証制度①
- 花粉症と相性の悪い食品
- 2 課商品案内⑪

山肌に 黄色い煙 気が滅入る

3 月になりました。先月の記録的な大雪で、身も心もお疲れのことと思いますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

積雪によるスリップや道路車線の減少、右折レーンの閉鎖状態などで大渋滞になりましたね。その所為だったとはいえ、配送の遅れなどご迷惑をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。また、転倒による怪我、カーポートや倉庫が潰れてしまうなど、被害を受けられました方に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、大変な雪害の後に控えるのは、毎年のことではありますが、花粉シーズンです。気が滅入る（黄が目入る）シーズンです。今号でも花粉症に関しての記事を後半に掲載していますので、少しでもお役に立てればと思います。

その前に少し気になった花粉症対策の話があったのでご紹介します。先日、当業界の新聞に「花粉症の症状を抑えるコンタクトレンズ」という記事

がありました。コンタクトレンズのメーカー「SEED（シード）」が、今年度内に花粉症による目のアレルギー症状を緩和するコンタクトレンズの、臨床試験を始めるという発表を行いました。1 日使い捨てのレンズに加工を施し、レンズから継続的に薬剤が放出される仕組みになっています。

花粉症患者は日本国内だけで 2,000 万人といわれ、うち 1,650 万人が目症状を訴えているとされています。普段は眼鏡を愛用している方も、目が悪くない方も、花粉の時期だけ度の入っていないこのコンタクトレンズを利用すれば、目のかゆみを比較的気にしなくてもいいことになります。もちろん価格や実際の効果にもよるのですが、多くの需要が見込めそうですね。

これが製品化できれば世界初ということなので、シードには是非とも頑張ってくださいたいです。3 年程度で発売を予定しているとのことでしたが、私個人としては、一刻も早い製品化を切望します。

(K)

賞状にカラー印刷

賞状用紙に印刷するといえばスミ 1 色印刷か、スミ+朱の 2 色の印刷が主流かと思われます。そこで、カラープリントできる山櫻のプリンター用の賞状用紙をご紹介します。

年度替りの時期ということで、進級や昇段など、さまざまなシーンで賞状用紙が多く使われる時期かと思いま

す。形式に則った賞状には難しい話ではありますが、少しカジュアルな賞状に、例えば生徒の顔写真を載せてあげたり、ユニークなマークをカラーで印刷したりとプリンター出力の小ロット対応ならではの商品をご提案いただけたと思います。プリンター対応商品を表にまとめますので、ご参考ください。

(K)

寸法	仕様	レーザー用	インクジェット・レーザー用
規格 A3	横長	○	○
規格 A4	横長	○	○
	縦長	○	○
	縦長・マーク刷用	○	
規格 A5	縦長		○
規格 B4	横長	○	○
規格 B5	縦長	○	

ノーカーボン紙印刷時の注意点：伸縮

前述の記事にも書きましたが、年度替わりということで伝票などの帳票類も一新される時期です。今年は消費増税の直前ということで、例年よりも多くの需要が見込めるのではないのでしょうか。ただ、3月は気温の上がり下がりが大きく、それに伴って湿度も大きく変化するととなると、紙にとっては過酷な気候条件となります。吸湿や乾燥によって紙が伸縮してしまうと、複写伝票にとっては、上用紙、中用紙、下用紙の罫線がズレてしまう可能性もあります。既にご存知かとは思いますが、改めてご注意い

ただければ幸いです。

ノーカーボン紙の吸湿・乾燥が原因となる伸縮による罫線のズレは、以下のような推測ができますので、もしトラブルになった際はご参考いただければと思います。

印刷のスケジュールの都合などもあるとは思いますが、トラブルを防ぐためにも、上用紙、中用紙、下用紙は、なるべく同じ条件下での印刷をお願いいたします。

(K)

事例条件) 上用紙と下用紙による二枚複写伝票

上用紙は正しく印刷された状態で、下用紙に伸縮が発生した。

状況	考えられる原因	過程
下用紙の罫線のみが縮んでいる	下用紙が 印刷直前 に吸湿して、伸びた状態で印刷された。	上用紙より伸びた寸法で印刷されるが、罫線は正常に印刷され、用紙が元の状態に戻ると罫線が縮む。
下用紙の用紙と罫線が縮んでいる	下用紙が 断裁直前 に吸湿して、伸びた状態で印刷された。	伸びた状態だが、上用紙と同じ寸法で印刷され、用紙が元の状態に戻ると用紙全体と罫線が縮む。
下用紙の罫線のみが伸びている	下用紙が 印刷直前 に乾燥して、縮んだ状態で印刷された。	上用紙より縮んだ寸法で印刷されるが、罫線は正常に印刷され、用紙が元の状態に戻ると罫線が伸びる。
下用紙の用紙と罫線が伸びている	下用紙が 断裁直前 に乾燥して、縮んだ状態で印刷された。	縮んだ状態だが、上用紙と同じ寸法で印刷され、用紙が元の状態に戻ると用紙全体と罫線が伸びる。

Japan Color（ジャパンカラー）認証制度①

皆さんは「Japan Color 認証制度」をご存知でしょうか。先日、社内で情報交換をしている中で上司から教えてもらいました。これを機に少し調べてみましたので、ご紹介したいと思います。

Japan Color 認証制度とは、一般社団法人「日本印刷産業機械工業会」が 2008 年 12 月より調査・検討し、2009 年 10 月にスタートした制度です。内容は、「枚葉印刷用 Japan Color」に基づいて認証を行うものです。

「Japan Color」とは、国際標準である ISO に準拠した日本のオフセット枚葉印刷における印刷色の基準のことで、簡単にいうと印刷における色の“ものさし”のようなものです。つまり印刷物の色を、印刷物の発注者、デザイナー、カメラマン、印刷会社など、印刷物に関わる一連の関係者の間で、個々の判断に任せるのではなく、ある程度明確な基準を設けて共通の認識のもとで印刷物を仕上げていくための“ものさし”というわけです。

この“ものさし”は、世界的に見てもそれぞれの国によって定められています。アメリカにはオフ輪

規格の SWOP や枚葉印刷向け規格の GRACol があり、ヨーロッパ各国では Euro Standard という規格を採用している国が多いようです。

印刷会社さんによっては、液晶ディスプレイに映し出される色とプリンターで出力される校正と実際に印刷機で刷られる印刷物の色の誤差を、できる限り最小限に抑えるように頻繁に調整されているところもあります。

結局のところ、今までの印刷物の善し悪しの判断は、印刷物の発注者の目によって決められていました。明確な基準のない中で作成される印刷物は、それぞれの立場によって違ってくる、色の再現の要求に対し、印刷会社さんは何度も校正を出したり、刷り直しをしたりして対応してこられたかと思えます。そこで、Japan Color という共通の“ものさし”を持ち合わせた状態から印刷物を作ること、印刷会社さんの負担を軽減できるというわけです。

その“ものさし”＝Japan Color を採用していることを、公的に認めてもらう制度が Japan Color 認証制度です。今回は、Japan Color 認証制度の中身について触れてみたいと思います。(K)

花粉症と相性の悪い食品

前回は「効果があるの？花粉症対策あれこれ」でしたが、今回は普段口にする食べ物で花粉症の方と相性の悪い食品を紹介したいと思います。

まず、花粉症の人の体内に花粉が侵入すると、アレルギーの免疫反応が起こり、ヒスタミン・ロイコトリエン・セロトニンなどの化学物質があふれ出ます。これらの化学物質が、くしゃみ・鼻水・鼻づまりの鼻炎症状を引き起こす原因です。そして、「これらの化学物質は食物にも含まれている」ため、注意する必要があります。

まず、花粉症の人は特定の果物や野菜を食べた場合にアレルギー症状を起こす場合があります。例えば、花粉症としてメジャーなスギ花粉の方は生のトマトを食べるとアレルギー症状を起こすことがあります。他にも北海道で多いシラカンバ花粉症の人はリンゴ、サクランボ、モモなどバラ科の果実に反応を示すことがあります。

花粉症の種類によって、アレルギー反応を示す食物は異なります。春の花粉症以外だと、ヨモギ花粉症の場合はセロリなどのセリ科の野菜、イネ科やブタクサの花粉症では、メロンやスイカなどウリ科の野菜で起こりやすいです。

また、花粉症にかかっている期間が長い人ほど、発症する割合が高くなります。さらに、年々食べられなくなる果物の種類も増え、症状も重症化する人もいますので注意が必要です。今のところ決め手となる治療法もないので、症状が出る果物や野菜は生の状態で食べないようにするのが一番です。しかし、加熱調理した場合は心配がないそうです。トマトなどのヒスタミン多く含む野菜やセロトニン多く含む果物には注意が必要です。



次に、ハム、ソーセージ類、アルコール類です。これらの食品は、直接症状を起こす原因にはならないものの、ハムやソーセージに含まれる亜硝酸塩など過敏性を高める刺激物質も悪影響を及ぼす可能性があります。また、アルコールの代謝途中でつくられるアセトアルデヒドは、末梢神経を刺激してくしゃみ・鼻水・鼻づまりを悪化させるため、花粉症の時期はお酒の量も控えることをお勧めします。

最後は、インスタント食品やファーストフードです。これらは、トランス脂肪酸を多く含む食品です。主にマーガリンやショートニングなどの加工油脂に含まれるトランス脂肪酸も、免疫系への悪影響が懸念されています。ショートニングは食感を良くするため、パンやケーキ、クッキーなどの洋菓子、スナック菓子、ファーストフードの揚げ物、インスタント食品や冷凍食品など、幅広く使用されています。

普段の食事で健康を意識している方は多いと思いますが、花粉症・アレルギーの方は普段食べるものに、“どのような材料・添加物が使われているか”まで気を配ることが大切です。

(お)

営業 2 課・キャンペーン商品紹介

☆タウパーノワレ S サイズ

只今 1 ケースお買い上げのお客様にカシミヤ BOX ティッシュを 1 個プレゼント中です。期間は今月末日までとなります。お早めに!!